

## 環境影響評価審査会（H25.7.30）における委員意見および回答

No.	分類	意見	回答
1	全体計画	市内の3施設が2施設になり、北部の更新も続き、ごみ量が減少する。施設の稼働とごみ減量の長期ビジョンを準備書冒頭に記述されたい。	ごみ処理基本計画に基づき、ごみ量および施設整備の今後の展望について、準備書に記載します。
2	敷地	敷地面積が約4haであることを明記されたい。	準備書に記載します。
3	全体計画	方法書では、プールによる余熱利用が無くなるとのことであるが、説明ではこれをやめないとのことであった。もう一度検討し、準備書の段階でははっきりと分かるようにされたい。	ごみ発電を推進する中、当該計画については今後検討を進め、準備書に記載します。
4	地盤	地盤の安全確認が必要だが、敷地内の詳細な地層図がない。	地質調査は平成23年度に実施しており、地層図等は別紙資料①のとおりです。
5	発生土	掘削で発生した土について、どのように保管するのか、埋め戻しはどうか。現段階での計画で構わないので記載すべき。	現段階では、掘削で発生した土は場外に搬出し、その一部を埋め戻し土に使う計画をしております。今後検討を進め、準備書に記載します。
6	水質	今の施設、新しい施設とも上水道を使用されるとのことだが、使用水量は変わらないのか。水質もあるが、トータルで考える必要がある。	現施設の上水使用量は約460m <sup>3</sup> /日ですが、新施設については発電を行うことによりガス冷却用の噴霧量が減るため、使用水量は減る予定です。一方、現施設の公共下水道放流量は約30m <sup>3</sup> /日であり、新施設でも大きくは変わらない予定です。 (別紙資料②参照) 上水使用量につきましては、極力無駄のないように今後検討を進めるとともに、公共下水道へ放流する汚水につきましても、システム全体のバランスに配慮しながら、負荷量（水量、水質）の低減を図ります。
7	水質	大気中への放出量、公共下水道への放流量といったトータルでどうなるかというアセスが必要。	排水量等を含めた排水処理フローの詳細は今後検討を進め、準備書に記載します。
8	水質	水量を含めた排水処理フローを記載すること。	排水量等を含めた排水処理フローの詳細は今後検討を進め、準備書に記載します。
9	水質	方法書P15の排水フローに量を加えて評価されたい。	排水量等を含めた排水処理フローの詳細は今後検討を進め、準備書に記載します。
10	敷地	排水処理を含めて、計画のスペースで大丈夫か。	プラットホーム等の地下部分を使用して排水処理施設の設置は十分に可能であり、計画のスペースで問題ありません。

No.	分類	意見	回答
11	水質	公共下水道に流すとのことだが、排水は分流式か合流式か？合流式であれば、雨水量によっては、直接琵琶湖へ放流されることになるので、下水道放流なので大丈夫ですと書けるのかどうかということ計算した上で、計画を記載されたほうがよいのではないか。	事業計画地のある大津処理区には一部、合流区域が含まれていますが、本市では、順次、合流式下水道の改善事業を進めているところです。 なお、事業計画地は分流区域であり、本施設からの排水については、現在も分流式としており、新施設でも同様に、雨水排水は原則、公共下水道へ放流しない計画です。 なお、現在の公共下水道放流量は日量約30m <sup>3</sup> （別紙資料②参照）であり、新施設でも大きくは変わらない予定です。
12	水質	計画している水質調査2地点は、何の違いを求めて選定したのか。土砂の仮置き場などの計画地から出るところで負荷を調べた方がよいのではないか。	調査位置は、計画地直下とその下流側の概ね2地点程度を考えていますが、ご助言も踏まえ、計画地近傍の状態が把握できる地点を選定して調査を実施し、その結果を準備書に記載します。
13	残土	掘削土の分析が事業計画地1地点の予定であるが、掘削量から考慮すると土壌の種類は異なると考えられる。濁水に関する評価も異なってくる。仮置き、埋め戻し、残土処分も含めて詳細な計画を策定されたい。	平成23年度に実施した地質調査結果を踏まえ、粒子が細かいなど影響が大きいと思われる地質・地層の土壌を対象として沈降試験等を実施し（既往ボーリングコア試料の使用）、その結果を準備書に記載します。
14	文化財	(p124)「文化財が存在しない」との判断は、教育委員会に聞いたのか。  既存施設の改変時には、対策を講じずつぶれている可能性もある。新たに法面を延長する部分は、当時の尾根が残っているのか。 当時の尾根が残っているのであれば、一度教育委員会に相談されたい。埋蔵文化財の分布図は、現時点で分かっているものであり、それ以外にもあらゆる場所に残っているということは想定して対策を立てなければならない	本事業計画に対し教育委員会からは特に意見は出されていませんが、万一、工事の実施時に埋蔵文化財が確認された場合には、文化財保護法に基づき関係各機関と協議の上、適切に対処します。
15	大気	付近の工場等と分離して評価することは可能か。	付近には大きな工場や多種の事業所、名神高速道路や多くの道路があります。調査においては、塩化水素などごみ焼却施設が主な発生源と考えられる項目や、粉じん等の成分分析（鉛、亜鉛、鉄、ナトリウムイオン、カリウムイオン、塩素イオン、硫酸イオン：方法書P.127参照）を行い、可能な限り由来の考察を行ったうえで、その結果を準備書に記載します。

No.	分類	意見	回答
16	大気	半径1.6kmの範囲内で調査地点を設定されているが、1号線より湖側がほとんど調査対象に入っていないのはなぜか。	排ガスの最大着地濃度地点までの距離を概略予測をした結果（約800m）を踏まえ、更に余裕を持たせた範囲を調査対象範囲に設定しています。その中で調査位置は、概略予測の結果を参考に、人家の分布状況、風向き等に留意して設定しました。
17	生物	(p75) 「大津コース」とは。 誤解の無いようにされたい。	既存資料の中の表現です。準備書では、誤解の無いよう記載します。
18	生物	ほ乳類調査は、目視調査よりセンサーカメラを用いた調査のほうが、確実に機会を上げられ、精度が高い評価ができるので、採用されたい。	ご意見を踏まえ、別紙資料③のとおり、自動撮影法（センサーカメラを用いた調査）を採用する方向で検討し、調査結果を準備書に記載します。
19	生物	動物の調査手法について、回数が記されているが、1回あたりの日数が不明なので明記すべき。	詳細な調査計画は資料のとおりです。 (別紙資料③参照)
20	生物	ラインセンサスと定点観測とで、何をしようとしているのかが不明確なので、明確にされたい。	
21	生物	生物および生態系の予測・評価では、建設工事中および解体工事中に限られているが、大気に何か放出されて影響があると一般的には考えがちである。大気の予測結果も踏まえた上で供用後にどうなのかというのを明記した方がよいのではないか。	生物（動物・植物・生態系）に対しては直接土地を改変する建設工事が最も影響を与えると考えています。生物に対する供用後における煙突排ガスの影響については、現況より排出濃度も低下する計画であり、また、S58年の気象データによる最大着地濃度（年平均値）の試算では、環境基準値の1/100～1/1000程度の極めて低い濃度となることが想定され（方法書P.119）、新設施設の煙突排ガスにより現況の生物への影響が生じる可能性は低いと考え、予測・評価の対象としていません。 なお、今後作成する準備書においては、当該準備書における煙突排ガスの予測結果を踏まえ、生物の各予測・評価の冒頭（予測対象項目の記載箇所）等において、その旨を記載します。
22	生物	ナラ枯れが供用後に広がった場合のことも考えて、植生調査時にナラ枯れの有無や評価の方法を考えておいてはいいかがか。	マツ枯れ、ナラ枯れの発生状況については、ご助言を踏まえ、植生調査において現況を把握し、その結果を準備書に記載します。

No.	分類	意見	回答
23	騒音・振動	パッカー車の台数の想定は。	現在は1日あたり100台程度であり、今後は、ごみの減量による減少と、リサイクル施設新設による影響を考慮して、約1割強の110台から120台を予想しています。
		騒音・振動に関しては、1割の台数アップでは影響は実質無視できるレベルと思われるが、住民に対しては、「一割も増加する」というような印象を与えないよう、うまく説明すべき。	準備書において記述を工夫します。
24	騒音・振動	搬入経路は、決められたルートのみか。	委託業者および許可業者にはルートを指導しており、主な搬入路としては方法書(P17)に記載のルートに集約されます。
前1	生物	目視調査ではなく、センサーカメラを用いた調査を採用すべき。	ご意見を踏まえ、別紙資料③のとおり、自動撮影法（センサーカメラを用いた調査）を採用する方向で検討します。
後1	大気	大気に関する現地調査でトレーサー実験を行うとあるが、トレーサーの使用量を抑えて効果的な調査とするために、可能な範囲で気象条件を選んで実施することが望ましいと考えられる。例えば、『〇〇日間程度の調査予定日の中から、低層大気が逆転層に近い状態、斜面下り方向に平均風速程度の風がある状態など、周辺居住地の大気質への影響が大きいと考えられる気象条件の日を可能な限り選定して実施する』ことは可能か。	<p>拡散実験は、冬・夏の2回、各季7日間程度の中で、気象条件が適当と想定される日時を選んで10回実施します。</p> <p>実験の対象とする気象条件については、対象地における卓越風向や出現しやすい安定度等の気象条件を、既往の計画地における気象データ（昭和57年度）を踏まえて把握したうえで、ご助言も踏まえ、以下の視点にも留意した条件を選定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画地東側～南側の保全対象住居の分布状況に留意し、当該保全対象が風下側となるケースの代表的な気象条件（斜面下り方向に平均風速程度の風がある状態など）を狙って調査します。</li> <li>・煙突排ガスの影響が大きくなることが考えられる、逆転層発生時や大気安定度不安定時を狙って調査します。</li> </ul> <p>なお、大気が安定な夜間より不安定な昼間のほうが着地濃度は高くなることが想定されること、作業の安全性にも留意して、昼間を中心とした実験を基本としますが、逆転層が発生しやすい早朝（5時～8時頃）の時間帯など、対象とすべき気象条件の発生が予想される時間帯を狙って調査します。</p> <p>また、対象とする気象条件の発生有無の予測は、天気予報および計画地で実施する上層気象・地上気象の測定データを参考に推定します。</p> <p>実験実施の最終判断は、直近の風向風速観測データを確認し判断します。</p>

No.	分類	意見	回答
後2	悪臭	悪臭に関する現地調査で、臭気指数と特定悪臭物質の双方を計測するとあるが、測定は臭気指数のみとして、環境試料と排出口試料の双方を、可能な限り多く測定した方がよい。(少なくともごみ処理施設由来の排出口臭気が一般環境に拡散した状況で、特定悪臭物質が検出される可能性はまずない、また、現地には臭気指数規制が適用されている)	本市においては、ご指摘のとおり、平成24年4月より臭気指数規制に変更になっていることから、ご助言を踏まえ、特定悪臭物質濃度の測定に代えて、排出源(排出口)濃度の測定箇所を増やし、調査箇所は、下記のとおり見直して実施し、その結果を準備書に記載します。 <b>■事業計画地敷地境界：2地点</b> <b>■周辺地域：5地点</b> <b>■発生源</b> <焼却施設> ・煙道：1地点 <リサイクル施設> (他の類似施設) ・排出口(脱臭設備出口)：1地点(※追加)
後3	施設	ごみピット汚水を焼却炉内(高温部)に噴霧するということだが、図3-5-1のフロー図に噴霧場所を書き込まれたい。	準備書において、フロー図に噴霧場所を追記します。
後4	施設	燃焼ガスの冷却方式としては、ボイラ+水噴霧方式になるのか。	ご質問のとおりです。本事業では、ボイラでの減温および減温塔での水噴霧による減温を行います。
後5	施設	ごみピット汚水を高温部に噴霧すると、発電量が減少する。発電量算出の根拠を明確にされたい。	現在記載している発電量(2,970kW)は、H23年度の基本計画の基準ごみ低位発熱量(9,200kJ/kg)、施設規模ごとに定められる高効率ごみ発電の交付要件となる発電効率(15.5%)、外部燃料投入量を0と仮定して算出※したものです。発電量については今後詳細検討を進め、準備書に記載します。  ※発電出力(kW) = ごみ発熱量(kJ/kg) × 施設規模(t/日) ÷ 24(h/日) × 1,000(kg/t) × 発電効率(%) ÷ 100(%) ÷ 3,600(kJ/kWh) = 9,200 × 180 ÷ 24 × 1,000 × 15.5 ÷ 100 ÷ 3600 = 2,970(kW)
後6	全体計画	ごみピット汚水は少ないほうがよい。市民に生ごみの水切りを徹底してもらいなどの対策も検討されたい。	ごみ処理基本計画にも掲げている通り「ひとしぼり運動」を実施しており、今後も引き続き、市民生活への定着を図ります。

No.	分類	意見	回答
後7	施設	既設焼却施設の解体にあたっては、ダイオキシン類に関する国のガイドラインにしたがって実施することを明記するとともに、周辺への影響についての評価を記述されたい。	解体にあたっては、「廃棄物焼却施設解体作業マニュアル」（平成21年、社団法人日本保安用品協会）等を踏まえて適切に実施することを準備書に明記するとともに、「粉じん等」の予測・評価において、周辺への影響についての評価を記載します。
後8	悪臭	臭気については、施設の中にリサイクル施設を含めて予測・評価されたい。	悪臭の予測・評価においては、リサイクル施設の影響も考慮し、その結果を準備書に記載します。
後9	伝承文化	事業予定地がどういった場所であるのか周辺の住民に聴き取りをし、土地の履歴を調べられたい。	事業計画地は既存施設の敷地内であり、昭和36年以降清掃工場用地として利用されている状況から、現在、当該地に伝承文化は存在しません。また、既存の資料からも事業計画地における伝承文化に関する記載は確認されませんでした。